様式 C-7-2

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 12 日現在

機関番号：23901
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2008～2011 年度
課題番号：20520072
研究課題名（和文）
日本ナショナリズムと戦後思想―戦争の記憶・表象に関する比較思想史的研究
研究課題名（英文）
Japanese Nationalism and Post-War Thoughts
研究代表者　樋口　浩造（Higuchi Kozo）
愛知県立大学・日本文化学部・教授
研究者番号：30243140

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：哲学・思想史
キーワード：東洋、日本思想史、ナショナリズム、戦後思想

１．研究計画の概要

本研究は、日本ナショナリズムの問題を、戦後日本の思想史上の問題として、戦後民主主義の質を問うような視座から考察することを目的とする。そのために、三つの柱から本研究を構成する。①，研究が緒についたばかりの戦後思想史研究という領域の中で、戦後思想の中心的役割を果たしてきた丸山真男をはじめとする代表的思想家の思想的テクストを、平和思想とナショナリズムとの相関関係という視点から分析していく。②，各地に作られた戦争記念碑や記念館・博物館を調査し、人々に受容される戦争の記憶のされ方を検討していく。平和国家日本をめぐる知識人の発言と、おそらくそれらとは大きな落差をともないながら作られていく戦争記念館の思想を、そのどちらもが戦後日本のナショナリズムの形成に参与してきたとする見通しのもと考察を加えていく。③，戦争の記憶・表象をめぐる東アジアの比較思想史的視点をできる限り取り入れながら行っていく。ナショナリズムが単に対内的に形成されるものではなく、また対外的な対抗関係から形成されるだけでもなく、同時並行的にまた世界的な冷戦体制の枠組やその崩壊後という状況の中で作られていくことを、戦争の記憶のされ方、戦争博物館の建設を題材に、比較思想史的な考察を加え、日本におけるいわゆる特殊「靖国」問題を、東アジアに共通する問題として、開かれた議論の俎上にのせる可能性を探っていくことを目的とする。

２．研究の進捗状況

① 研究の前提になる、これまで積み重ねてきたナショナリズムに関わる思想史研究を、『「江戸」の批判的系譜学－ナショナリズムの思想史』と題して出版した。また、戦後の頂点思想家と目される人物の主著をめぐって、書評論文６本を今年度まとめることができた。夏には共著として発刊予定である。また、ナショナリズムへの批判的な視座からの論文を改稿し、「ナショナリズムと「日本文化」論――「文化」の境界を越えるために」と題して印刷中である。活字化されてはいないが、「ヒロシマ」や「平和憲法」をめぐる思想史的考察を口頭で行った。

② これまでにかなり活発にフィールドワークを行ってきた。地元では愛知県三ヶ根山の殉国七士之墓や、知多半島の軍人人形、また美濃善光寺の英霊人形などの調査を進めた。英霊人形については昨年度愛知県立陶磁資料館にて展示も行った。さらに英霊人形について、群馬県、静岡県でも調査を実施して、全国的な概要の把握に努めた。その成果は「小倉山善光寺所蔵『日露戦役野戦第九師團戦歴』解説」として『愛知県立大学文学部論集日本文化学科編 11 号』に発表した。

③ 中国の戦争記念館での調査を精力的に行った。天津の中国人強制連行記念館や北京の抗日記念館では、館長他の説明を受け、また聞き取りも行った。成都、重慶、上海、南京の各都市での調査も実施し、中国についてのデータはかなり収集できた。しかし、成果としてまとめるに至っていない。

３．現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

①②については成果も出ており順調と考えている。③についての成果が未だ出せていないところがこれからの課題である。

４．今後の研究の推進方策

③の成果をどのような形で出せるのかが、まずは問題である。さらに、頂点思想とフィールドワークの成果とをどのように結びつけることができるのか、がこれから問われる問題である。

５．　代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２件）

①樋口浩造、史料紹介：小倉山善光寺所蔵『日露戦役野戦第九師團戦歴』解説、及び注記、共著、『愛知県立大学文学部論集日本文化学科編 11 号』2009 年 3 月、p107～p167、査読無.

②樋口浩造、「「江戸」の系譜学ー近世思想史研究方法論として」、単著、『愛知県立大学文学部論集日本文化学科編 10 号』2008 年 3 月、p39～p52、査読無.

〔学会発表〕（計１件）

①樋口浩造、「平和国家日本」という語りー「ヒロシマ」「平和憲法」の集合的記憶、2010 年 8 月 13 日、国際シンポ「南京をめぐる記憶の場」（於：南京大学）.

〔図書〕（計３件）

①樋口浩造、『国境の歴史文化』、共著、担当箇所「ナショナリズムと「日本文化」論ーー「文化」の境界を越えるために」、清文堂　印刷中.

②樋口浩造、『日本思想史の３０冊』、共著、担当箇所丸山真男、竹内好、ほか６冊、人文書院　印刷中.

③樋口浩造、『江戸の批判的系譜学ーーナショナリズムの思想史』、単著、2009 年４月、ぺりかん社、230 頁.